

マクロ経済政策の不確実性が消費に及ぼす影響

経済学科 4年 根元ゼミナール

関原 航大

要旨

本研究では、日本の財政政策及び金融政策の不確実性が家計の消費行動にもたらす影響について分析する。先行研究では、経済政策の不確実性が、マクロレベルで消費を低下させることや、政治的不確実性が家計の消費を低下させることなどがマイクロデータを使って示されている。

慶応義塾大学パネルデータ設計・解析センターから提供された「日本家計調査(JHPS/KHPS)」を用いて、パネルデータの分析を、最小二乗法及び固定効果モデルにより行った。

その結果、財政政策及び金融政策の不確実性は、消費を低下させることが明らかになった。

この研究の含意は、政府及び日本銀行は、不確実性を減らすような取り組みを実施することが重要であるということである。

[キーワード] 日本家計パネル調査、経済政策の不確実性指数、予備的貯蓄